

# 安部郁美

## 小平弘起宮司勇退 名誉宮司へ



古い歴史と伝統と格式高い穂高大神様へ、昭和45年4月より実に46年間の長きに亘り、ご奉仕をさせて頂きました。

大神様は人々の暮らしに根差した守護神であり、時代に応えるため今何を成すべきかを考えながらの奉仕でありました。平成10年宮司

就任以来、穂高の伝統芸術であります穂高人形飾物を後世に継承すべく、穂高人形・御船祭保存会を設立以後、後継者の方々が三人の人形師の特徴ある技を吸収し御活躍されておりますこと大変嬉しく思います。平成14年には有明出身の篤志家より駅通り入口に石造大鳥居を新設。平成21年の遷宮祭には拝殿を大型化し、参拝者に便利で気持ち良く参拝し祈りを捧げ、神々を身近に感じて頂けますよう改築。平成28年には神楽殿の改築と境内整備を心掛け、尊厳が高まったと感じております。又、永年の懸案でありました穂高大神が天降りしました奥穂高岳の真の頂上に石造御本殿を移し改築。威風堂々として安曇野を護つておられます事は神々のお導きと山岳関係者の御尽力に厚く御礼申し上げます。穂高神社崇敬会発足7年になり、県内外の多数の方々が入会されておりますことは大神様の御神徳の賜物であり心強い限りであります。

神々に仕えて46年間、至らぬ私が恙なく健康で思に残すことなく満期定年となりましたこと、事有るごとにご理解、ご賛成下さいました氏子総代各位、氏子・崇敬者、多くの方々の御指導御鞭撻の賜物と神々の御加護があればこそと感無量。皆々様に感謝申し上げます。

穂高神社の信仰をさらに昂め広めて頂けると確信しております穂高光雄新宮司他職員に大いに期待しております。永いことありがとうございます。

発行所  
穂高神社社務所  
創刊 昭和52年2月  
〒399-8303  
長野県安曇野市穂高6079  
電話 0263-82-2003  
FAX 0263-82-8770

## 穂高光雄権宮司

### 宮司に就任



び申し上げます。

日頃は格別のご芳情を賜り厚く御礼申し上げます。この度小平弘起宮司の後任として12月9日付を以ちまして穂高神社宮司を拝命致しました。ここに謹んでご報告申し上げます。

長年に渡り、ご指導賜りました小平宮司に感謝申し上げます。引き続きたご苦勞を守り続けます。

素より浅学菲才の身にて、その任の重さを痛感致しております。この上は一意専心、御神威を畏み御加護を仰ぎ神社護持運営、神社と氏子崇敬者、氏子崇敬者と神社の絆を大切に、伝統を守り神社隆昌、斯道の興隆発展に力の限り努力していく所存でございます。

小平宮司は遷宮3回奉仕し大事業を成し遂げられました。そのご功績を讃え穂高神社名誉宮司の称号についでいただきたく存じます。

前任者同様格別のご指導と変わらぬご支援を賜りたく伏してお願ひ申し上げます。

## 皇太子・同妃両殿下 奥宮参拝

8月11日、皇太子・同妃両殿下は愛子内親王殿下を伴われて上高地バスターミナルで開催された第1回「山の日」記念全国大会記念式典に御臨席になされました。式典後、河童橋周辺を御視察。

その後穂高神社奥宮明神池を御散策にられました。

穂高神社奥宮社務所前にて小平宮司が歓迎とお礼の挨拶を申し上げます、多くの参拝者が奉迎しました。参拝した後、明神池へと進まれました。愛子内親王殿下は、池で泳ぐ魚を興味深くご覧になられ、手を入れられ水の冷たさにふれ自然に親しみられました。

皇太子殿下が明神池を訪問されるのは、昭和42年に皇太子・同妃両殿下であられた天皇・皇后両殿下と御一緒に訪問されて以来49年ぶりであり、小平宮司は「神武天皇の叔父神である穂高見命をお祀り申し上げます奥宮に2度も御訪問を賜り光栄」と申していただきました。

# 安曇族のふるさとを訪ねて

今こうして静かに旅の3日間を振り返るとき、強烈な印象として残っているのは、香椎宮の御神木である樹齢1800年、直径5メートルの「綾杉」です。志賀海神社とも関連する神功皇后が植えられ幾度か神殿と共に焼けたことがあったが、その度事に植継ぐ事なく今日に至っているのです。圧巻でありました。今回の研修旅行は、やはりメインは安曇族の本拠地である志賀島の志賀海神社であります。どの様な環境、又雰囲気の中で鎮座されているのか興味津々、期待いっぱいでの正式参拝でありました。我々を迎えてくれたのは、うっそうと茂る木々の影で騒ぐ無数のカラスの群れでありました。玄界灘に面し神々しい雰囲気、静寂の中での正式参拝でありました。

私にとりましては夢と謎を秘めた志賀海神社ではありましたが、気持ちを揺さぶるものが、又心に寂寥感が残ったのは何故だったろうか。時間をかけて自分に問うて答えを出していこうと思います。宿泊の志賀島休暇村での宴席に志賀海神社権禰宜平澤様、総代役員の皆様が同席され宴に花を添えて戴けたのは、嬉しい限りで楽しいひと時でありました。歴史観漂う松下村塾、静けさいっぱい萩城下町は再び最愛の人を訪れてみたい気持ちにかられました。神秘

氏子総代 浅川 保門  
的な秋芳洞、関門海峡、赤間神宮それらのすべてが強く想い出として刻み込まれていきます。

3日間の研修旅行は多くのものを考察し、参加された氏子総代の皆様の信頼関係がより強固なものとなり今後の奉仕活動もスムーズに進む様な気がします。研修旅行の所期の目的は充分果たせたかの思いです。各神社を参拝し今更乍ら穂高神社の重厚さを感じ、尊崇、崇敬の念が更に深まった有意義な素晴らしい旅でありました。



平澤権禰宜より志賀海神社の説明を受ける



崇敬会、一般参加者 (10月20日～10月22日)



氏子総代 (10月14日～10月16日)

志賀海神社の「七夕祭」に参列

〜 綿津見の神に捧げる宵待之翁を拝観して〜

8月6日、穂高神社と縁深い福岡県は福岡市志賀島の志賀海神社の「七夕祭」に参列をしました。当日の天気は、福岡に向かうにつれて雷雨が激しくなってきました。福岡の地に立ったが、雨は降り続き一抹の不安はあったものの志賀海神社に着いたころには、雨も上がり爽やかな風が吹き心地よい天気になりました。午後7時より祭典が始まり、「宵待之翁」と「竜の舞」が奉納されました。

翁は、神事の意味が濃いもので、新年の深夜に奉納されることが多く能面を付けて舞うが、志賀海神社では能面を付けず、しかも、夏の七夕祭の宵の口に行われる珍しい「翁」を「宵待之翁」と名付けられた能だそうです。闇の帳が落ちる中、能が始まると境内が厳かな雰囲気包まれ神妙にして静寂な神の世を表すがごとく魅了されました。

続いて、奉納されたのが「竜の舞」でした。

この舞は、志賀海神社に伝わる舞で10月の御神幸祭に頓宮にて舞われる舞で、志賀島固有の竜神信仰に影響されて獅子頭が龍頭のように長めに作られ、頭に鹿の角を2本刺し胸前に捧げ持ち、竜がくねり舞うように舞います。福岡県の無形民俗文化財に指定されています。



「宵待之翁」とは、また違った厳肅な中、竜がくねりながら動くかの如く、迫力のある舞でした。

第11回 穂高神社 写真コンテスト入賞作品

大賞 「ナイスキャッチ」 林 春男

本宮賞

「お舟祭り」

青木美幸

奥宮賞

「山に祈る」

等々力昌明



遷宮賞 「神立て神事」 小河深美

写真コンテスト入賞作品

賞名	氏名	住所	題名
大賞	林 治男	安曇野市	ナイスキャッチ
本宮賞	青木 美幸	須坂市	お舟祭り
奥宮賞	等々力昌明	安曇野市	山に祈る
遷宮賞	小河 深美	安曇野市	神立て神事
入選	青木 花子	須坂市	皆の者いこそ!!
入選	村岡 清隆	大町市	ご神体が進む
入選	中田 幸一	松本市	幽玄の輝き
入選	平川 博夫	安曇野市	式年遷宮奉納ステージ舞祭会(穂高の舞)
入選	浅川 泰廣	安曇野市	炎の舞
佳作	中野 博司	安曇野市	点火前の神事
佳作	小平 方水	安曇野市	オ!可愛いネ
佳作	増田 恵	長野市	きぼうの光(ISS)
佳作	小口 照人	岡谷市	優美な巫女舞
佳作	浅川 潔	安曇野市	御船のおなか

●平成27年7月1日より平成28年6月30日まで作品を募集したところ、大勢の方より応募をいただき、ありがとうございました。

# 崇敬会通信

去る9月4日（子供祭の日）、第7回総会が開催され、会員32名の出席を賜りました。議案はすべて満場一致にて可決頂きましたこと、衷心より御礼申し上げます。

## 崇敬会新入会員

（平成28年1月1日〜平成28年11月30日まで）

### 名誉会員

小穴 邦子  
甲信アルプスホーム  
株式会社 アスピラ

### 法人会員

長崎 寛城

### 個人会員

児島由希子	秋山 満	滝澤 国明
太田 亮	上條 許	松岡三恵子
飛田 理恵	鳥越 泰義	野田 吉徳
青木 泰山	石森 京子	塩沢 暁平
成田 義之	上田 幸子	小林 公緒
郷津よし江	荒木 晴男	召田 亨
本郷美佐緒	中沢 喜子	前原 好子
上嶋 光司	高木 妙子	土岐 正覚
吉田 馨	町田 淳子	小林 幸子
小関さおり	田中 敏彦	

### 特別会員

隠岐富士弘

## 崇敬会研修旅行

### 穂高神社奥宮を参拝して

去る7月27日、国民の祝日「山の日」を記念し、穂高神社奥宮を参拝・上高地散策に参加させていただきました。雨が降りました。雨が降りだしそうな天気の中、バスは穂高神社を出発し上高地バスターミナルへ。河童橋周辺を散策した後、五千尺ホテルにて大人気の名物ビールシチューランチを頂きました。とても美味しかったです。

午後はネイチャーガイドのさくらさんとノツポさんの案内で自然や植物と触れ合いながら左岸の道で奥宮へ向かいました。猛毒のアルカロイドを含む毒草「ヤチトリカブト」の花も咲いています。

歩いてる途中、今まで雲で隠れていた空から太陽が見え始めてきて、穂高神社嶺宮が鎮座する奥穂高岳をはじめ壮大な穂高連峰が



姿を現してきました。普通に歩けば1時間の道を2時間かけて奥宮に到着し、正式参拝をしました。その後明神池を散策し船にて明神池を一周しました。池の水はとても透き通っており魚が泳ぐ姿もみえました。帰りの河童橋の行程は自由散策とのことで、行きとは別ルートの右岸を行きました。川沿いの遊歩道でしたので澄んでいる川の流れや山の景色を眺めながら歩いて行きました。

この研修旅行で改めて自然や植物と触れ合って大切にしていこうと感じました。

（勝山真希）

## 崇敬会入会のご案内

安曇野が誇りとする20年に一度御本殿一殿を造り替える式年大遷宮祭と北アルプスのふもとの安曇野が心と技を捧げる御船祭は、長い歴史の中で培われた安曇野の文化と信仰を象徴しています。

海の恵みと山（陸）の幸を併せ持った御神徳は広大無辺であります。

皆様方には穂高の大神様とより一層深い御神縁を結ばれ生き生きと栄え日々御護り頂けますよう「穂高神社崇敬会」へ一人でも多くの方にご入会頂きますようお願い申し上げます。

### 会員種別入会金（年会費）

- 一、個人会員 3,000円
- 一、法人会員 5,000円
- 一、名誉会員 10,000円

### ◎特別会員

穂高神社氏子（安曇野市穂高 等々力区・等々力町区・穂高町区・穂高区在住）に限る

2,000円

新春祈願・交通安全祈願大祭の御案内

新しい年を迎え 感謝と祈りをこめて

今年も残すところあとわずかとなり、なにかと気ぜわしい日々をお過ごしのことと存じます。

今年は何年かを通して様々な天変地異が発生し、文化財の損失や農産物の不作損害と共に大勢の人が避難を余儀なくされた年でありました。

科学が進歩し発展した現代でも災害には事後の究明は出来ても予知する事は不可能であり先人達は「無事で有り難い」という言葉を神様に捧げ、平和で豊かな日本を築いてきました。

今日の情報伝達はマスコミ報道によって瞬時になされていますが、人や物の移動運搬はその速度こそ速まっても昔と変わらず、車などの乗り物に頼っている中で安全は全てに優先されています。

穂高神社では豊かさへの感謝と、安全を普段から心がけている皆様の願いが叶い続けますよう祈って参ります。

神気改まる年明けと共に使用されているお車のお祓いによる交通安全と霊験あらたかな御加護のもと、大神様の後光を授かり諸祈願の成就をお祈りにお越し頂きますよう謹んで新春祈願大祭のご案内を申し上げます。

一、期間 一月一日〜八日 (受付九時〜十六時)

一、内容 交通安全、家人安全、事業繁栄、商売繁盛、厄除、八方除、試験合格、学業成就、病気平癒、身体健全、開運招福、心願成就、安産、お宮まいり、初誕生祝い、災難除、職場安全、子宝、良縁祈願、夫婦円満、歩行安心、お礼参り、人形供養、もののけの祓、他願い事。

一、祈禱料

- 普通祈禱 五、〇〇〇円
- 追加祈禱 三、〇〇〇円
- 特別祈禱 一〇、〇〇〇円
- 追加祈禱 七、〇〇〇円

交通安全祈禱

- 普通祈禱 一台につき 五、〇〇〇円
- 特別祈禱 一台につき 一六、〇〇〇円
- 追加祈禱 (二台目から三、〇〇〇円)

厄除・八方除の特別祈禱祭のご案内

平成29年厄年を迎える方、八方塞りの方はお祓いをお受けになり、大神様のご加護のもと平穏無事で明るく充実した生活をお送り下さい。

厄年・やくどしと十三参り

古来より厄年は人生において心身の節目や責務の重い時期で、事故・病氣・災難など障害の起きやすい年廻りとされ、十三参りは干支が一巡することから子供から成人となる節目とされています。

厄年一覧表(数え年)

男女共通十三参り	女性		男性		前厄	本厄	後厄
	年齢	干支	年齢	干支			
男女共通十三参り	61歳	昭和33年生	昭和33年生	昭和31年生	平成6年生	平成5年生	平成4年生
	37歳	昭和57年生	昭和57年生	昭和55年生	大厄33歳	昭和51年生	昭和50年生
	19歳	昭和61年生	昭和61年生	昭和59年生	昭和62年生	昭和61年生	平成10年生
	61歳	平成12年生	平成12年生	平成11年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	25歳	昭和32年生	昭和32年生	昭和31年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	19歳	昭和56年生	昭和56年生	昭和55年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	61歳	昭和32年生	昭和32年生	昭和31年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	37歳	昭和56年生	昭和56年生	昭和55年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	19歳	昭和61年生	昭和61年生	昭和59年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	61歳	平成12年生	平成12年生	平成11年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	25歳	昭和32年生	昭和32年生	昭和31年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	19歳	昭和56年生	昭和56年生	昭和55年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	61歳	昭和32年生	昭和32年生	昭和31年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生

高年齢の厄年(数え年)

産まれた年の干支がもとの干支に戻ることを長寿の祝とした60歳の翌年が通常の厄年の最後であることから、現代では長寿祝を迎えた年(古希70歳・喜寿77歳・傘寿80歳・米寿88歳・卒寿90歳)の翌年が高年齢の厄年となります。

年齢(祝歳の翌年)	生まれ年
91歳	昭和22年生
89歳	昭和15年生
81歳	昭和12年生
78歳	昭和15年生
71歳	昭和22年生

厄除・八方除の特別祈禱祭は1月7、8、9、14、15日に斎行致します。

平成二十九年 一番祈禱のご案内

「ひとりひとりを受けられる成就の鈴被い」

年明け午前0時の時報とともに、初春のよろこびを神様にお告げし、天下泰平をお祈りする元旦祭にひき続いて、新年の一番祈禱を斎行致します。二年参り・初詣には様々な願いを胸に祈られる事と存じます。

そんな多くの願いを必ず叶えていただけるよう、新年の巫女舞を加えた一番初めに一度しか行われないう大変貴重な御祈禱です。

御祈禱内容のすべての願いを込めて御祈禱致します。

一、祈禱料 一〇、〇〇〇円  
お申し込みは、電話・ファックス・メールにてご予約下さい。

当日申し込みの方は、31日午後11時より受付致します。ご予約済の方は午後11時45分までに拝殿授与所までお越しください。尚、ご参列不可能な場合は御神札等郵送致します。

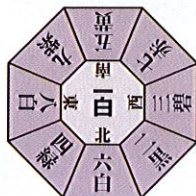
【八方塞り:はっほうふさがり】

九星は人間の運勢や吉凶の判断に用いる九つの星のことで、九星年盤の中央に入る星を本命星といいます。

本命星にあたる方が八方塞りの年で、周囲八方ふさがれ、八方どの方位方面に向かっていても不吉な結果を生じ障害があり、手の打ちようのない不安定な年廻りとされています。

九星年盤 平成29年 八方ふさがりの方 (一白水星・男女)

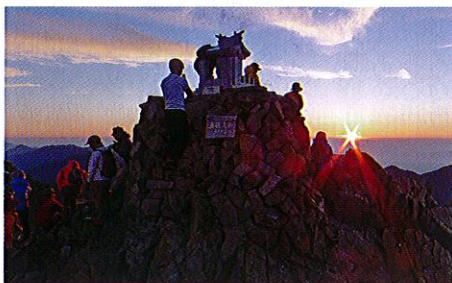
■男・女八方塞りの年まわり表		数え年
一白水星	生まれ年	年齢
一白水星	平成20年	10歳
一白水星	平成21年	19歳
一白水星	平成22年	28歳
一白水星	昭和56年	37歳
一白水星	昭和47年	46歳
一白水星	昭和38年	55歳
一白水星	昭和29年	64歳
一白水星	昭和20年	73歳
一白水星	昭和11年	82歳



平成28年式年遷宮祭最後の行事  
「嶺宮登拝」のお知らせ

嶺宮は穂高連峰最高峰、奥穂高岳(3190m)の頂に鎮座し、

主祭神「穂高見命」が降臨された神聖な場所であり、また、遷宮祭の翌年に行われるまたとないこの機会に、霊峰への登山に挑戦されてはいかがでしょう。



尚、高所、長距離の登山となりますので、誠に勝手ながら70歳未満の登山経験の豊富な方で、体力に自信のある方のみ募集とさせていただきます。

**期日** 平成29年7月下旬予定 2泊3日  
**募集人員** 30名

詳細は次号にてお知らせいたします。

● 氏神さま ●

お正月には初詣に行き、着物を着て健やかな成長を願つ七五三参り、子供を授ければ安産祈願、赤ちゃんが誕生した報告と無事生まれたことの感謝、健やかなる成長を祈るお宮参り。昔から人生の節目節目にお参りする、身近にある神社です。氏神さまは任んでいる地域を守り、日々の生活などを見守り、助け導いてくださる存在です。

安曇野市穂高、等々力区・等々力町区・穂高町区・穂高区の氏神さまは穂高神社であり、この区域にお住まいの方はもちろん氏子であります。移り住まれた方も氏子であります。穂高神社は氏子の皆様の協力、また、供進金にも支えられて成り立っております。氏子総代がお願いに廻っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

節分豆まき

平成29年 年男・福女募集

来る平成29年2月3日午後4時に行われる節分祭の豆まきに、ご奉仕いただける方を募集いたします。ご希望の方は、神社までお知らせ下さい。

◎参加料：5,000円

神楽殿より福豆(景品付き)福銭をまきます。皆様の御参拝をお待ちしております。

第31回

「秘めたる穂高の  
工芸作家二十人展」のお知らせ

安曇野穂高が世界に誇る漆芸家、故高橋節郎先生を生んだ穂高に在住する工芸家の銘品を展示し、大変好評を得ておりますこの展覧会には是非お越しください。

**日程** 1月1日～3日

午前9時～午後4時

**場所** 穂高神社 参集殿

初詣の後に温かいお蕎麦はいかがですか

二年詣り、1月1日・2日・3日に南神苑参集殿前にお蕎麦・おやき・おでん・あま酒等販売致します。右下のチケットをお持ちいただくと天ぷら蕎麦を…500円にて提供させていただきます!! ぜひお立ち寄りください。

忘年会・新年会予約承ります

まずは、お電話を!! お待ちしております

参集殿 和美庭 ☎0263-82-0118

天ぷらそば  
通常600円を  
¥500  
お一人様1杯限り  
12/31.1/1.2.3有効

三九郎 一月十五日

●午後1時頃より餅つき、餅つき終了後点火。お餅は、おしるこお雑煮にして振るまいです。